

第 50 回 百周年記念史誌部会議事録

日時: 2010年6月23日(水) 16時10分～18時00分

場所: 重要文化財 会議室

出席者: 横山孝男部会長、松田則男、栗野宏、小山明夫、大町竜哉、神戸士郎、奥山澄夫、高畑保之、綿貫藤雄、片山政弘各委員、小室秀一編纂室員、斎藤ひろみ編纂室補助員、小関栄助氏、
欠席者 新関久一、小池邦博、山崎洋一郎各委員

【配布資料】

- [資料 50-1] 山形大学工学部 100 周年史誌編纂室 更新履歴 [A4/1 頁]
- [資料 50-2] 米沢高等工業学校初代校長大竹多氣展(仮称)(提案) [A4/1 頁]
- [資料 50-3] 明治大学借用予定貴重図書輸送の件(見積り) [A4/4 頁]
- [資料 50-4] [今月の話題] サッカーを通じた工学部での交流 [A4/2 頁]
- [資料 50-5] 歴代学部長への 100 年史編纂参与就任依頼状 [A4/1 頁]
- [資料 50-6] 山形大学工学部 100 周年記念誌「百人の声」ご寄稿の御礼 [A4/2 枚/3 頁]
- [資料 50-7-(1)] 記念物検討班 2010.6.23 [A4/1 頁]
- [資料 50-7-(2)] 記念物の収集展示と教育への応用 (群馬大学工学部) [A4/1 頁]
- [資料 50-7-(3)] 「記念物の収集展示と教育への応用」について (熊本大学) [A4/3 頁]
- [資料 50-7-(4)] 富川先生の希望収蔵物 [A4/1 頁]
- [資料 50-8-(1)] 大竹多氣記念物収蔵について 2010/6/23 奥山澄雄 [A4/3 頁]
- [資料 50-8-(2)] ○ 山形大学附属博物館規則 (平成 5 年 4 月 7 日 全部改正) [A4/1 頁]
- [資料 50-8-(3)] ○ 山形大学附属博物館展示品受託規則 (昭和 38 年 9 月 20 日 制定) [A4/1 頁]
- [資料 50-8-(4)] ○ 山形大学附属博物館資料貸出内規 (昭和 47 年 8 月 8 日 制定) [A4/2 頁]
- [資料 50-9] 神戸大学バーチャルミュージアム [A4/3 頁]

D) 報告&連絡事項

1. 斎藤ひろみ編纂室補助員からホームページの更新に関する報告があった。
 - (1) 5月28日、31日、6月11日に写真アーカイブスを公開した。

II) 協議事項

1. 百年史

- ① 10月に開催予定の初代校長大竹多氣展に関して小関氏から説明があった。
 - 1). 講演内容として6点、展示物として10点選んだ。
 - 講演の「1. 建学の趣旨」は大切であり、大学が担当すべきである。
 - 「4. 文学の造詣」は大竹俊樹氏。
 - 「5. 多氣と米沢」は米沢に詳しい方をお願いしたい。当時の米沢日報を調べると、多氣は学校以外のところでも活躍しており、色々な提言や活動をしたらしい。
 - 「6. エピローグ」は奥さんの紹介も併せ、北山原のキリシタン殉教の地などのエピソードを交えたい。
 - 2). これに対して、どれくらいの時間を考えているかとの質問が出され、展示の期間は1週間を想定しているとの回答が寄せられた。
 - 3). 大竹多氣展を開催する旨書面を副学部長に提出した。記念講演は式典が14時40分から15時30分の50分程度である。講演を式典に含めたいが50分という時間では難しいと考える。例えば式典を2時間に拡大するか午前中に講演会を開催することなど考える必要がある。この件について時間の配分も併せて案を作っていたきたいと横山部会長から小関氏にの要望が出された。
 - 4). 小関氏から、講演「2. 大竹多氣の経歴と実績」「3. 染織技術者としての実績」「4. 文学への造

詣」については自らが担当し、「5. 多氣と米沢」「6. エピローグ」は造詣の深い方をお願いしたい旨要望が出された。

② 今月の話題について

- 1). 今月の話題について、大町委員から、色々な方をお願いするという趣旨から横山部会長の後任としてサッカー部の顧問をされている機械システム工学分野・南後淳教員から「サッカーを通じた工学部での交流」[資料 50-4] と題する寄稿が寄せられた旨、報告があった。
- 2). 来月の担当は神戸委員である。

③ 百年史の構成イメージについて

- 1). 最初に、100年史編纂参与について、歴代学部長の消息がわからない、どなたにお願いすれば良いかわからないのでアドバイスをお願いしたいとの質問が出され、横山部会長から特別なことが無ければ全員に依頼し、お断りされたら参与からは外れて頂くということで良いと考える、とのコメントが出された。
- 2). 装丁について100年後でも散逸しない品質が求められるとの立場からA5判のクロス貼りが相応しいとの案が出され、了承された。
- 3). 第49部会で百年史に歴史を通説する通史や部局史以外に、編纂や資料の収集過程で現れてきた大竹多氣の知られざる側面(小関氏)や青春の碑にまつわる話題(渡辺克美氏)、また横山部会長や小室編纂室員の手による各種トピックスを論文として追加掲載することが提案された。また更に追加論文を公募するか否かの検討を行ってきたが、百年史はあくまで歴史を記録として残すことを第一の目的とし、論文を増やすことは雑誌的な構成となり歴史編纂書的なイメージから外れるとの意見が出され、現在のところ、前述の4名以上の論文は増やさないこととなった。
- 4). 第49部会で横山部会長から検討依頼のあった、2010年現在の事柄についての取り扱いについての審議がなされた。

- ・ 横山部会長から、百年史の原稿が集まってきて素晴らしい内容ででき上がりつつあるが、内容が過去の事柄が中心となり現状が手薄になっている印象がある。ここで、最新のものも必要と考える。1910(明治43)年から2010(平成22)年の最後までつなげたいこと、そして2010(平成22)年現在の各分野の陣容—すなわち構成員や研究テーマ、開講科目、研究・教育の内容を100年後の後世に伝える部分を加えたい、との趣旨説明があった。
- ・ そのためには、その部分を1) 部局史に付け加えること、2) 各部局(教育プログラム)で記述すること、3) 執筆者としてプログラム長と一緒に書いても良いが、部会委員がもっとも相応しく、また各委員の名前を残したいという気持ちもあること、との説明がされた。
- ・ 大町委員からどの時点で記述すべきか、足並み揃えて記述すべきか、などの質問が出され、横山部会長から最近の人事は日々変化するので、例えば平成22年の12月31日時点での陣容の現状を記述するのが良いだろう、との回答が寄せられた。
- ・ 奥山委員から陣容を部局史に加えることは、平文は書きにくいし、読まれないと考える。表にして資料編を追加した方が良いという提案がなされた。
- ・ 小山委員から通史に現状と将来の章があるが、それとの棲み分けについての質問があり、横山部会長から学部長室の記述による通史の12章には無いことを記述することであり、部局から個別に執筆・提出してそれを学部のものとしてまとめるのは大変であるとの見解が出された。
- ・ また、大学として陣容などの資料を大学でまとめているならそれを活用することもできるとのコメントが出され、横山部会長が綿貫委員に現在の陣容をまとめている部局について質問したが、2010年現在の陣容をまとめている資料は無いとの回答であった。
- ・ ヒストリー班で再検討することとなった。

2. 100周年記念誌

① 100周年記念ジャーナル誌についての評価・反響について

- ・ ジャーナルの配布・発送はまだされていない旨、報告があった。

- 片山委員から6月末から7月はじめにかけて発送する予定であるとの報告があった。
 - 評価や反響については配布後に出てくるとした。
- ② 執筆者への寄贈の件
- 寄稿をいただいた103名の方に記念誌を寄贈したい旨、提案がなされた。
 - 50部ほどを部会の持ち出しとして寄稿して下さった方に寄贈したい。しかし5月の記念式典で24名に差し上げているらしいとの情報もあり、重複して進呈はしないという原則に基づき、配布した方々について更に調査をすることとなった。
 - お礼の文書【資料50-6】について説明があった。募金のお願いの表現について工夫をすることとした。
 - 栗野委員からお礼の手紙には記念誌の進呈に時間がかかってしまったことについてのお詫びの一文をいれたほうが良いとの提案がなされた。

3. 記念物検討班

- ① 神戸委員から資料50-7-(1)に基づいて役割分担、スケジュール、調査内容、調査対象についての説明があった。
- ② 神戸委員が5大学連携の担当をしている関係から群馬大学、徳島大学、愛媛大学の歴史的記念物の取り扱いについての調査報告がなされた【資料50-7-(2)、(3)】。徳島大学の返事は無い。
- 1). 群馬大学では桐生高等染織学校であった経緯から、染料や染色のコレクションが充実している。また、工学部の建物(桐生高等染織学校本館、講堂、守衛所、正門)は有形文化財に指定されている。同窓会が種々の収集記念物の管理・保管を行っているが、同窓会は任意団体であり、組織が確立されていないことが問題である。
 - 2). 熊本大学では「工学部研究資料館」に収蔵されており、一般開放されている。収蔵物として15尺旋盤など工作機械3台が重要文化財に指定されており、動態保存されている。また、オンラインミュージアムサイトも開設・公開している。
 - 3). 愛媛大学工学部は1963年に新居浜から松山にキャンパス統合のため移転した。その折りに記念物はほとんど破棄され、残っていない。
 - 4). 富川先生から超音波モーターやジャイロセンサーなどの実験機器類の収蔵希望があった。現在3号館のバクウ研究所に保管されている。既にプラスチックケースに収納されており、展示が可能な状態であり、現物での保管・展示が適当であると考え。量は機の半分位に収まる。説明文を富川先生にお願いしたい。受け入れについて、記念物収蔵の規則が確立するまでは学科で受け付けた後、学部の会議で検討し、決定することとする。
- ③ 奥山委員から大竹多氣記念物収蔵について資料50-8-1(1)に基づき説明があった。三角係長に話を聞いた。受け入れる物品の量や場所、規則また現在の所有者がどう考えるかが懸念事項として挙げられた。
- ④ 小山委員からバーチャルミュージアムについて説明があった。
- 1). 資料50-9は神戸大学の旧姫路高等学校物理実験機器コレクションである。神戸大の構成はオーソドックスであり、比較的作りやすいサイトである。この様であれば取り組み易いとした。
 - 2). 一方、東京大学のデジタルミュージアムは坂村健先生が中心となってバーチャルとリアルの複合や画像修復技術の研究ベースで進めている。大掛かりであり真似できるものではない。
- ⑤ これらの説明の後、質疑応答で以下の意見交換がなされた。
- 1). 10月9日に開催する予定の百周年記念会館落成記念式典に併せて大竹多氣展を行いたい。その行事に必要な事を解決していきたい。
 - 2). 明治大学からの資料を借用する予定である。
 - 保管は奥山委員が折衝した部屋で行う。
 - いつ受け入れてどのような手段で持ってくるかなど具体的手段を奥山委員、片山委員、小関氏と米竹図書館長、百周年総務部会長で協議し、10月9日の式典に向けて詰める。
 - 米竹総務部長の確認はとったので、予算は百年記念実行委員会でも支出できる。見積りと予算の執行は片山委員が担当する。

- 3). ここで奥山委員から実際に指示系統として担当する三角係長を通す必要があると考えるので、部会に三角係長も出席していただきたい旨要望が出され、横山部会長の了承を得た。
- 4). 横山部会長から記念物収蔵検討班の班長は神戸委員、奥山委員、小山委員の中から決めて動くよう、また常に三角係長と情報を共有して進めていただきたい要望が出された。
- 5). 小山委員から、検討班は可能か不可能かを検討することが役割であり、実際に動く事は、他のスタッフに担当させて欲しい旨、要望が出された。
- 6). このコメントに対して、横山部会長から収蔵の内容の検討、受け入れ規則や方法、場所については今回の報告で良いと考える。バーチャルミュージアムについての必要陣容などについてのコメントを小山委員に求めた。
 - ・ 小山委員から、バーチャルミュージアムについて神戸大学の形式なら実現可能である。しかし実際にはウェブのデザインに専用のスタッフが必要となる。具体的にはhtmlを書ける人、デジタルカメラの撮影が出来て、収集し、説明文を書くことができる人など5,6人程が必要である。実際には博物館の人数くらいが必要になるとした。
 - ・ それに対し、大町委員からデジタルミュージアムは必須ではないので、展示したその後に、ゆっくり検討しても良いだろう、とのコメントが寄せられた。
 - ・ 横山部会長から記念物検討班が行っている内容はすぐに実現する話ではないとの確認のコメントが出され、収蔵のシステムとして記念物の収蔵はこうやれば良い、また無理であるなどの結論を3月一杯で出したいとの意向が確認がされた。
 - ・ 部会として10月9日の記念講演ならびに展示会の実現に向けて行動したい、旨確認した。
- 7). 記念物収集として必要なこととして、小関氏が所有者の意向について見解を述べた。
 - ・ 多くの記念物は大竹俊樹氏が所有しているが、いずれ会津若松の図書館か、山形大学工学部に寄贈したいという意向を持っている。
 - ・ 会津若松は他に歴史的資料が多く、その中大竹校長の資料が入っては影がうすくなってしまうので、工学部に収蔵することが理想的であると考えます。
 - ・ 大竹俊樹氏は賞状や勲章は持っていたいという意向なので、それらはお借りして複製を作り、複製を大学が持つことが良いと考える。他には紙のものがほとんどである。
 - ・ 父親の大竹作右衛門の資料は短冊程度である。短冊類は紙そのもの、また接着剤が劣化しており、取り扱いに注意が必要である。
 - ・ 染色雑誌は明治43年にすでに図書館に寄贈されている。他にも大竹多氣先生が直接寄贈された本が図書館の書庫にあるものと考えられる。
 - ・ 染色見本はほとんど当時のままである。

4. ミーティングの件

- ・ 横山部会長から、毎月の定例部会が開催される前週の月曜日 12時からミーティングを開催しているが、ジャーナル班が一段落ついた現在、ヒストリー班に加え、記念物検討班を加わっていただきたい旨、要請があった。
- ・ 電情系では月曜日の昼に会議があるが、会議がある時は16時から開催していただくなど時間を調整すれば出席が可能であるとの意見が出された。

III) その他

1. 次回の部会について

次回の会議は7月28日(水)16時10分から重要文化財2階会議室で開催の予定。

2010年7月27日